

平成29年度 自己評価・学校関係者評価（小学部） 報告書

岐阜県立中濃特別支援学校

学校番号 113

自己評価

学校教育目標	・いろいろな人と関わり、地域で豊かに生活する力を育てる。	
評価する領域・分野	・小学部：「教育活動・学習指導」「安全管理」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・全20項目中、「あてはまる」という肯定的評価の上昇が前年度に比べて15項目を占め、特に「よくあてはまる」は16項目と上昇した。 ・「いろいろな人との交流を通じた体験」「実態に即した授業内容や進度」において、「あてはまらない」「わからない」という評価が若干増えた。 ・「わからない」という評価において、「体罰の防止」は15%減少、「いじめや差別への厳しい対応」「進路の情報提供」は8%減少した。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①第三者が見ても分かりやすく、実践に基づく評価に裏付けられた「個別の指導計画」「指導と評価の年間計画」を作成する。 ②専門性の向上をより一層要する若手教職員が多い状況下で、児童が安心かつ安全な学校生活を送れるティーム・ティーチング力の向上を図る。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ①部主事と部教務係が連携をして、教職員へ個別に適切な指導助言を行う。 ②ヒヤリハット発生時は関係者全員を招集し、情報を教職員全員で共有する。 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①部主事は記載内容、部教務係は使用文言を中心に添削し、作成者及び学年主任へどのように記載すべきか、話し合いを基にして指導助言する。 ②発生した原因の探求と今後の対応を、極力その現場にて検証するとともに、部会において教職員間の共通理解を図り、以後の教育現場に生かす。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ①「個別の指導計画」については2回目の作成時に指導助言が反映され、「指導と評価の年間計画」についてはこれを意識した授業実践となったか。 ②ヒヤリハット事案発生が月を追うごとに減少し、特に第2学期は大きな行事が多く、その取組期間中も児童が安心かつ安全な学校生活を送れたか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ①「個別の指導計画」に関して、第1日目は3回の訂正を要する学年が目立ったが、第2日目は2回の訂正でクリアする学年が大半であった。 ②ヒヤリハット報告作成に対する教職員の抵抗感も漸次小さくなり、ヒヤリハット報告が電子掲示板にアップされ、全校教職員の共有財産となった。 	
評価の視点		評価
①第三者にも分かりやすい評価に裏付けられた諸計画のPDCAが展開できたか。		A (B) C D
②児童が安心かつ安全な学校生活を送れるよう支援できたか。		A B (C) D
成果・課題		総合評価
○「個別の指導計画」「指導と評価の年鑑計画」に基づいて、授業における計画や支援の在り方を話し合う場が教職員間で定着しつつある。 ▲年度当初は身体に関するヒヤリハット事案が頻発し、その後漸次減少したが、年度後半は搜索に関するヒヤリハット事案の発生が目立った。		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ①生活年齢を考慮に入れつつ6年間を念頭におき、校外学習及び交流学習も盛り込んだ当校教育の基軸となる生活単元学習一覧を作成して活用する。 ②本年度発生した全ヒヤリハット事案を基に作成したチェックリストを作成し、学年主任による学年のチェックと部主事による状況確認を徹底する。 	

学校関係者評価（平成30年2月5日実施）

意見・要望・評価等
・交流の中で何か手伝いができれば、できる限り協力する